

北と南の森づくり JTの森ゆのまえ (熊本県)

広がる
JTの森の輪



5月20日、熊本県湯前町^{ゆのまえ}で催された「JTの森ゆのまえ森林保全活動」に、当町から西川学校教育課長と小原農林水産課主事補の2名が訪町し、互いの取組や今後の森林保全活動についての情報交換等を行いました。

当日は、高知県奈半利町^{なはり}も訪れており、3町でそれぞれデザイン異なる「JTの森記念タオル」の交換セレモニー（写真左）が行われました。

湯前町は、平成27年6月に当町へ同活動の視察に来町されています。

当日は、高性能林業機械のデモンストラクションと操作体験、人工湖でのカヌー体験など、当地ならではのオプション活動も催され、当町の参考となりました。前日の19日には、JT本社

また、湯前町は、B&G財団の「海洋センター」を活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業」に選定されており、それぞれの取り組み状況についての理解を深めました。

今後、JTの森や海洋センターなどを通じて、両町の交流の輪を広げていきたいと思っています。

また、6月17日には、「JTの森積丹/2017年春」森林保全活動を、美国川流域エリア（婦美町）で開催します。皆様のご参加をお待ちしています。



▲湯前町海洋センター

CSR推進部社員と3町担当職員による懇談会が催され、それぞれの抱える課題やこれからのJTの森の取り組みなどについて意見交換が行われました。

余別川の自然を学ぶ

サケ稚魚観察会を開催 —余別小学校—

4月21日、余別新川のサケ馴致施設（飼育場所）で余別小学校児童8人がサケの稚魚への餌やりなど新川で飼育しているサケの観察を行いました。

児童は、安宅町保護水面監視員から、生まれた河川に産卵のため遡上するサケ科魚類独特の生態や、余別川に生息している様々な生物などを教わりました。

その後、児童は、馴致施設で飼育中の2万尾のサケの稚魚に専用の餌を与え、サケの摂餌状況を観察しました。

児童からは、「サケの稚魚が川に群れている姿を見て感激した」、「稚魚が餌をたくさん食べてくれて楽しかった」、「川にエゾサンショウウオなどたくさんの生物がいてびっくりした」などと感想を話し、余別川の豊かな生態系に触れる1日でした。



～楽しい放課後 安心・安全な居場所を！～ 『放課後児童健全育成事業』を実施中

町では、小学校児童の放課後の安心・安全な居場所の提供と見守りを行う事業を昨年8月から実施しています。

内容は、従前の学習やスポーツ・文化活動などを行う『放課後子ども教室（火・木曜日）』と、安心・安全な居場所を提供する『ランドセル広場（月～土曜日）』の複合事業で、いずれも、総勢8名のコーディネーターやサポーターが交代で、児童の指導や見守りのお世話を行います。

本年度は、5月1日現在24名の児童が登録しており、留守家庭児童は学校からランドセルを背負ったまま、B&G海洋センターに向かいます。

利用には登録が必要となり、年度途中でも、たくさんの友だちの登録をお待ちしていますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

対 象： 町内の小学校に通う小学1～6年生の児童
開 設 日： 毎週月曜日～土曜日
（祝日、お盆期間、年末年始は除く）
場 所： B&G海洋センター
利用料金： 無料
【問合せ先】 住民福祉課 Tel 44-2113
生涯学習課 Tel 44-3260



役場のお仕事は？ 年長児5人が役場見学

びくに保育所の年長児5人が、いろいろな職業を知ろうと、5月19日、役場の見学に訪れました。

子どもたちは庁舎内を見学し、職員が仕事をしている様子を真剣に見ていました。子どもらしい素直な質問も飛び交うなど、子どもたちの無邪気さに職員も顔をほころばせていました。

また、町長室にも訪れ、1人ずつ町長の椅子に座って、ちょっとした町長気分を味わい、満足気でした。短い時間でしたが、子どもたちにとっても、保育士の私にとっても楽しいひとときでした。

（びくに保育所 保育士 崎山浩世）



磯野直大氏（美国町出身）考案

「桜鱒の漬け鮓」が新千歳空港に

5月5日～7日の3日間、新千歳空港で開催された「シェフ×まち×デリ」に積丹ブースの出店を行い、役場と観光協会の職員8人が町のPRと特産品の販売を行いました。

このイベントは、北海道各地の特産品を、北海道を代表するシェフならではの発想で、新しい魅力を引き出した。新しい魅力を引き出した

5月5日～7日の3日間、商品開発をするものです。当町では、札幌市中央区で「鮓いその」を運営する磯野直大氏（美国町出身）の考案で、積丹のサクラムスを使った「桜鱒の漬け鮓」を販売しました。

ゴールデンウィーク期間中ということもあり、たくさんの方が訪れ、その場で食べた

ど好評でした。

積丹町の様々な資源の魅力をより多くの方々知っていただくPR活動等に今後も努めていきます。

